

## 「寒河江市学校施設整備計画」地域説明会 質疑応答

会場：白岩小学校 体育館

日時：令和4年5月25日（水）19時30分から20時40分

参加人数：22名

出席者：教育長

学校教育課長（兼）学校再編整備室長

学校再編整備室 室長補佐（兼）係長

学校再編整備室 学校再編整備係主任

（質問者）

学校整備計画の中で10年、20年後を見据えてとありますが、これまで40年、50年の校舎が老朽化で改修が必要と、想定として何年もつ学校を作っていくのか。やはり10年、20年でまた建て替えを考えなきゃいけないのか。それとも50年、100年もつ学校にしていくのか、そういったところも議論の中にあってしかるべきではないのかなと思って聞いておりました。学校というと、これまで田代小は閉校して10年近くなりますけれども、閉校した小学校を維持するのもすごく大変。実際地域の方で維持管理しておりますが、年間何百万円かかっております。避難所として使うということであれば、財政措置もしっかり考えた上で計画を示していただいた方がわかりやすい。児童数の推計の中で、どんどん減っていきますと、これはどこでも同じ状況だと思うが、地域の子供たちが、将来、寒河江にずっと

住んでいたいという教育を教育委員会では方針を示していただきたい。さがえ未来コンソーシアムは、地域と学校と企業を結ぶというお話でしたが、あまりにも漠然としていて何を目指しているのかわからない。子どもたちが将来、本当に寒河江が好きだ、寒河江に住んでいたい、とそれが人口減少を抑える切り札になるのかなと。寒河江を自慢できる子どもたちの教育をぜひ考えていただきたいと思います。

（学校教育課長）

校舎が何年もつか、国で示している目標使用年数は、80年です。40年を目途に長寿命化、20年を目途に大規模改修という周期で考えております。

（教育長）

寒河江の子どもたちが寒河江に住みたいと思う教育が大切というのは本当にその通りだと思います。4月の校長会でも寒河江に住んで、寒河江で働いて、地域とともに生活していく子どもたちを育てていきましょうというお話をしてお願ひしたところでした。コンソーシアムの件ありましたが、寒河江の良さをまだ子どもたちがわかっていないというか、それは歴史的な部分であったり、寒河江市内にもいろんな企業さんがあって、世界を相手にして活躍されている企業さんもいっぱいあるんですよ。そういったことをわりと子どもたちは知らないんです。例えば、中学校で職場体験であったり、小学校での地元の会社見学を取り入れながら、寒河江にはこんなすごい会社が

あるんだとか、こういう会社で働きたいなと、小さいうちから感じられるような取り組みをやっていきたいと考えているところです。

（質問者）

今の説明を聞いて感じたことを話したいと思います。今の計画ですと令和10年に中学校が1つになる。人数が少なくなればクラスが減って、生徒が増えればクラスが増えて先生の数も増えて、きめ細やかな指導ができるという話があったのですが、そういう面ともう1つは、令和10年に1,000人近くの生徒数になるわけです。1,000人規模になったときの生徒のストレスとかそういった観点からの説明はなかった。陵西中ですと、1学年1クラスなのではないでしょうか。そういったところから1,000人規模の学校になったときに生徒のありようというか、そういった視点からの説明がなかったので、なったときにどうなのかなと思いました。施設的にいじめがなくなる施設にしたいということですが、ハード面でなくソフトの面からのアプローチの説明があって欲しかった。白岩でいうと小学校関係の跡地利用はこれから検討するのでしょうか。

（学校教育課長）

合併すると子ども数も増えストレスも増えるのかなと思います。合併する前に、3中学校同士で前もって顔合わせをしたり、交流をしたりしてスムーズに合併できるようなことも考えています。学校の利用につきましては、市の方で個別施設計画を今年度策定する予定を

しておりますので、その中で決まっていくものと考えております。

（教育長）

ゆとりのあるスペースを設けながら、なるべく死角がない校舎、いじめの対応や早期発見できるように、校舎の設計とかも考えて行く予定です。

（質問者）

10年後、20年後を見据えていった場合に、この白岩から学校が消えるということはやっぱり寂しいというのがあります。ここ数年の間に田代小がなくなり、幸生小がなくなり、白岩小もなくなるのか、という寂しさ。そして母校だった陵西中学校もなくなってしまうという寂しさ。10、20年後を見据えた時に白岩の姿、幸生、田代の姿を考えたときに、地域の行事に子どもたちが関わるとありますが、実際問題自分たちの同級生30数名おりましたが、住んでいる方は半分以下です。ここから学校がなくなって、学校の近くに引っ越すとすると、地域維持をする部分から心配が募りますが、学校だけではなく地域のことをどのようにお考えになっているかを伺いたいです。学校の学級数、文科省で示している基準とありますが、私も教員ですので多種多様な意見を取り入れて授業をしたいと思っていますんですけど、ここの学級数で切磋琢磨するとありましたが、個人の変化をじっくり見守るといふ小さい学校の良さもあると思います。標準学級数の学術的な根拠、データがあるのかどうか。

（学校教育課長）

学校が核になっていることについては、学校のあり方検討委員会で議論になったところです。結論として、まちづくりという枠組みのなかで地域の活性化を目指すということで、意見がでたところであります。地域を活性化する方法をみなさんで検討していかなければと思っております。

（教育長）

標準学級数について、ある程度の学級数がないとクラス替え等もできない。少なくともクラス替えできる学級数というので、小学校だと6学年ですので2クラスずつで12学級を設定している。中学校は教科ごとに教員がいるわけで、ある程度の学級数がないと教科の専門の先生が配置できないということだと思います。そういったことから標準学級数としてだしている。教員も人間ですので、全ての子を全ての面から見るのは難しいと思う。いろんな先生がいると、それぞれのその子に対して、様々な面からいろんな見方もできて、その子の良いところがより一層発見でき、声かけできる。実際、先生の経験上もそう思われるのではないのでしょうか。

（質問者）

統合ということになれば、十分な教員数を確保するとともに、多様な目で子どもたちを見られるように、教員の確保ということで頑張っ

ていただければと思います。

（質問者）

陵西学区の生徒数が減るということで、陵南が増えているということは陵南中学校近くの道路が整備され、市、民間で住宅造成が盛んになり、いろいろなところから転居された方がそこに住まわれているということだと思います。だとすれば、高松に団地造成して、そこに新しい住宅がはりつくような形にできないのか。ほなみ団地から陵東中学校までの道路が新しく作られております。道路が完成すると宅地造成が始まっていろんな住宅が建つのではないかと思います。陵東中学校が減るとなっているが、減るカーブといいますか、そんなに減らないのではいか。陵東、陵西の合併で市内2校というのがいいのではないかと私は考えます。学校のあり方の答申の中でも良いこと、課題となることなど明示になっているが、先ほどの説明では良いことは述べられましたが、こんな課題がありますということにはなんら答えがなっていないのはすごく残念だと思います。中学校が1,000人近い中学校ができる、同じ規模の新庄、東根と比較しても1校にするのはあまりにも乱暴ではないかと感じがします。小学校についても、陵西中学校のところに陵西学区の3校の小学校を1つの小学校にするのは、西川小学校と比べれば遜色ないほどの児童がいるわけですから、それでもいいのではないかと私は思います。寒河江警察署の下に断層があるのではないかとということで、建て替えしなければという話を聞きます。陵東中学校のところに学校を持っていくの

は断層の関係で心配があります。あまりにも急ぎすぎている統合計画ではないかと思います。

（学校教育課長）

高松に団地整備、ほなみ団地から陵東中学校の住宅整備は、どのように進んでいくかわからないので、今の状態で推計をさせてもらったということです。メリットばかりでデメリットの説明がないというご意見ですが、学校行事等において個人個人の役割が減る、一人一人が活躍する場が少なくなってしまう課題もあると思っております。警察関係で断層があるというご質問ですが、十分調査して、検討させていただきたいと思います。

（質問者）

大きくなるほど、300人以上の学校ができることが心配です。あまりにも乱暴だと感じます。

（学校教育課長）

大規模になってしまうので、死角のない校舎を作るように考えているところです。

（質問者）

1学年9クラスあったときに河北中学校の教員をしておりました。すごい数になってどこが同級生なのかわからない。教員をした時も、

教科の関係上せめて4クラスの名前を覚えるのが精いっぱい、他のクラスの顔も名前を覚えることが私はできませんでした。大規模になるとそういう面を持っているという心配をもってこちらに伺いました。どれくらいが適正規模か、というのを本当に考えていただかないと。先生方の勤務時間が非常に長いとよく言われます。ニュースになります。その中で、先生方を増やす。教育は人なりと言われて、先輩方から。何とかうまくできるように過ごしましたが、なかなか私はかなわず現在に至っております。先生方を増やしていただいて、目をもっと増やして行ってほしい。統合スケジュールは、早急ではないかなと思います。統合した時はみんな頑張ろうね。よそから来ても頑張ろうと最初はすごく頑張るんです。生徒も先生方も。それから、いろんなストレスといいますか、環境もありますけど、いじめ問題から暴力問題まで発展してしまっ、廊下をバイクで走ったとか、本当に大変な時期がありました。ですから子供たちに目の届く教育をしていただきたい。子供たちのことを考え、その規模を考え、先生方の大変さを解消していただける統合にしていきたい。さらには、皆さんおっしゃるように地域が統合しても子どもたちが元気だね、良かったね、と言って私たちもこの地域が元気になって良かったねと言えるものになってほしいなと思って今日来ました。

(学校教育課長)

今回の統合は、さんさんプランもありますので、1クラスの人気は減るのかなと思います。クラスの数が増えると先生の数も増えます。多

くの先生方の目で子供たちを見守っていけるのではないかなと思います。

（教育長）

大規模校での心配は当然あると思います。私も河北中に960人くらいの時に勤めましたが、大規模校ならではの良さも当然あるわけで、私も全校生60人くらいから960人の学校に勤めましたが、それぞれの良さがあると思います。あり方検討委員会でも3校を1校に統合することと2校というのをいろいろ議論され、答申になったということかと思いますが、良さを活かして、マイナス面をカバーする学校、指導体制を考えていきたいと思っています。

（質問者）

中学校統合を進めることになった理由について、他の地域では反対意見が出たと聞いたのですが。

（学校教育課長）

児童生徒の減少、地域による不均衡の拡大、学校施設の老朽化ということがあります。あり方検討委員会でも2校案、1校案が併記になったわけですが、教育委員会としては1つの学校に資源を集中して、同じ学校で、同じ教育目標で寒河江の子どもたちを育てていこうという考えで1つの学校と考えたところです。

(質問者)

2校案、1校案にするには、市に委ねることにしますとなっておりますが、市で決めたということですか。

(学校教育課長)

あり方検討委員会では、市の判断に委ねることになったので、1校と決めたのは市です。

(質問者)

あり方検討委員会で決めたわけではなくて、ここにいらっしゃる方が1校がいいと決めたんでしょ。

(学校教育課長)

はい。そうです。

(質問者)

それはおかしいと思う。

(学校教育課長)

あり方検討委員会でも1つに決められなくて、教育委員会で1つに決めたということです。

(質問者)

あり方検討委員会で、いろんな人が入っていろんな意見を言って、1校案、2校案を出して、市に委ねると。市の方々がどういったことで1校にしたのかはわかりませんが、1校というのは、どうなのかな、2校ではだめなのかなと思うわけです。

（質問者）

大規模校にした場合、いじめの件数が増えるデータとかお持ちでしたら。増えるとしたら反対です。お持ちでしたらお答えいただきたい。

（教育長）

大規模校だからいじめがどんどん増えるというデータはないと思います。絶対数が多いので、件数的には、小さい学校と大きい学校を比べると件数的には大きい学校の方が多いということはあると思いますが、大きくなるとどんどん増えていくというわけではないと思います。実際に、陵南の校長もしておりましたが、年によって件数が違いました。200件という年もありましたし、いろんな対策をしながら40何件、50件とかに減ったということもあります。いじめの防止には教員も一生懸命取り組んでおります。保護者の方にも協力を得ながら対応してきております。

（質問者）

統廃合によって小学校も中学校も校区が広がる心配があります。働く身からしても親御さんたちからみても、対応していただけるの

か。心配なところがあると思います。そこについて安心するようなご回答をいただければと思います。学区が広くなり、先生方が対応する、保護者の方に連絡する。地域の中だと親同士が同級生だと家庭の中で話になるところがあります。大きな学区になると会ったことない方同士が何かトラブルがあったときに、学校が対応するのは心配という声もあると思うのですが、安心できる材料とかお持ちでしょうか。

（教育長）

安心できる材料かわからないのですが、トラブルへの対応は学校としてどう対応するかということが大事だと思います。担任によって対応が違ったりしてはトラブルが広がるもとですので、これは学校の指導体制としてトラブルに対応できるようにやっていくということだと思います。現在でも陵南の学区は広いので、地区も違って保護者の方同士も全然顔も知らないということも当然あるわけですが、そうした時には保護者の方にも学校から丁寧に説明しながら、こういう状況で、ということでトラブルの解決に対応していくということだと思います。それで安心とはならないかもしれませんが、そういった対応をしていくということが学校教育の中で大事なことだと思います。

（質問者）

コミュニティースクールについてですが、現在各小中学校で実施さ

れているが、目的としては地域と学校をつなぐ目的で、運営協議会、地域コーディネーターが配置されており、活動しておりますが、始まったばかりで、悩みながら進めている状況です。今後、学区が大きくなると地域コーディネーターの役割もより複雑になってくるのかなと。どういう風に学校にかかわっていけばいいのか。大規模校になればなるほど地域と学校をどうつないでいくのか。そういったところが全く見えないところになってくるのかな。最短で4年後には、統合小学校になりますし、そういったときに中学校にこういった形でつないでいくのか。地域コーディネーター間の横の連携とか、一度、会合がありましたが、学区のどういう子どもたちになってもらいたいのか、共通の目標を教育委員会で音頭をとってもらって、それが将来寒河江の統合中学校につながるような、ある程度方向性を示していただいて、寒河江に住みたいという人たち、将来寒河江の人口を減らさないためにも、寒河江を愛することもたちをどのように育てていくのか、いじめの問題いろんな問題ありますが、最終的にはそこにつなげていただければと思います。地域コーディネーターの仕事が役に立つのであれば、学校の先生たちのサポートにより多くの地域コーディネーター、各学年1人くらい配置してもいいのかなと。そういったところの考え方も少しずつで構いませんので、お示しいただければと思います。

(教育長)

貴重なご意見ありがとうございます。学校と地域を繋ぐという意味

で地域コーディネーターの役割は今以上に大きいものがあるのではないかと考えております。これからの計画に沿った中で、今の状況での活動だけでなく、統合にむけてどのようなコーディネートのある方があるのかということも他県の事例の紹介も含めて、コーディネーターの方の研修の場、情報交換の場を設けて行きたいと考えております。